

# 大日山の天狗の話

—— 笠間市

昔、上加賀田の大日山のふもとに、こしん坊という息子と年寄りの母親が住んでいました。こしん坊は親孝行で、二人は貧しいながらも親子仲良くくらししていました。

母親は、「一度でいいから尾張の津島へ行って天王様の祭りを見てみたい。しかし、津島は遠くて行けるわけがないし…」と、口ぐせのように言っていました。

ある日の晩、こしん坊は、「おらが津島に連れて行ってやっぺ。目かくしをして、おらにおぶさつてくんろ」と言いました。母親がこしん坊の言う通りにすると、ふわっと体が浮いたようになり、あっという間に津島に着きました。賑やかなひとときを過ごし、祭りが終わると、母親は再びこしん坊におぶわれ家に帰りました。

家に着くとこしん坊は、「疲れたから、今日は一日中寝ていたい。おらの部屋はあけねえでくろ」と言って、自分の部屋に入ってしまった。



ところが、いつまでも起きてこないこしん坊を心配した母親がふすまを開けると、そこには部屋いっぱい羽根を広げて眠る天狗の姿がありました。母親は、驚きましたが、こしん坊との約束があったので知らんぷりをしました。

しかし、こしん坊は、「正体を見られたら一緒にいらねえんだ」と、大日山に帰ってしまいました。

その後、一人寂しく暮らしていた母親が大日山に入ると、時折こしん坊が姿をみせることがありました。

ある冬の日、庭先まで来たこしん坊は「何か食べたいものはねえけ」と母親に尋ねました。竹の子が食べたいという母親の願いを叶えると「遠いところに旅に出ることになった。でも、おっかさんが生きているうちは冬でも竹の子が出るようにしてやってっから」と言い残し、二度と姿を現わすことはありませんでした。

母親は、こしん坊はきつと天狗の子だったのだと考えたそうです。そして、この竹の子のおかげで母親はいつまでも長生きをしたといえます。

離れていても母を想うこしん坊。その気持ちは、天狗でも人でも変わらないのでしょう。もうすぐ母の日。いつの日も感謝の気持ちを忘れずにいたいものですね。

※1 上加賀田：現在の笠間市  
※2 尾張の津島：現在の愛知県津島市

（参考資料）茨城のむかし話（茨城民俗学会編）



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

## ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>